

# 9 体 育 科

今村昌禎・島本 靖

## 1 研究テーマについて

### (1) 「自立に向かう子どもたち」の姿 <3つの『り』>

- ① 健康・運動へのこだわり(=自主的な問題解決能力) = 自分の体を見つめ、受け身ではなく、健康・運動にこだわりをもって(没頭して)取り組み、主体的に課題を追究している姿。
- ② 仲間とのかかわり(=豊かな人間性) = 仲間の演技や動きに励ましやアドバイスを送ったり、仲間との話し合いの中で、問題や課題を解決したりして、共に高まり合おうとしている姿。
- ③ 生活への広がりのための健康や運動(=たくましく生きるための健康や運動) = 自分の体を見つめ、学習した事柄をふだんの暮らしの中に積極的に生かしている姿。

### (2) サブテーマ「人やものとかかわることを大切に」のとらえ

サブテーマには、人やものとかかわることによって…

- ① 問いや気づきが生まれ、意欲が高まる。
- ② 自分だけでは気づかないことに目を向けたり、自分の考えを深めたり、修正したりしながら、主体的に運動する態度や問題解決能力を身につけていく。
- ③ 身につけた力が集団の中で生かされ認められることで、子どもは自己の存在に自信をもち、自分らしさをもっと追究していく。

ということが含まれている。そこで、体育科の学習において、3つの「かかわり」を大切にしたい学習に取り組んでいく必要があると考えた。

- ① 健康・運動とのかかわり
  - ◇ 子どもの実態を十分にふまえた年間カリキュラムづくり・教材選び
  - ◇ 運動の特性を味わえる出会わせ方・課題設定・活動時間の保障
- ② 仲間・教師とのかかわり
  - ◇ 一人一人がみんな違うという認め合いから出発し、共に楽しむために体験を通して学習を創り上げる。
  - ◇ 誰もが自由に意見が言い合え、出された意見をみんなが受け入れ、共に活動するやわらかな雰囲気づくり。(教え合い、励まし合い、認め合い、思いやり)
- ③ 自分自身とのかかわり
  - ◇ 運動するときの感覚や感性を大切に。「体との対話」
  - ◇ 自分らしさを見つめ、表現できる場や時間の保障。
  - ◇ 健康・運動と自分、仲間と自分を見つめ続けるふりかえり。

## 2 基本的な考え方について

運動領域は、運動の特性を味わう上で、人間関係が大きく左右する学習である。グルー

ブやチームの人間関係によって、運動の特性に関係なく、好きになったり、嫌いになったりもする。つまり、肯定的にとらえると、運動を通して、より望ましい人間関係を築き上げることのできる学習であるといえる。

保健領域は、生涯を通じて大切にしていきたい心と体の健康に関わる学習である。自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を培うとともに、生涯にわたって心身の健康を保持増進するための実践力を育成することをねらっている。この2領域による学習の関連を図りながら「生きる力」を育むことができる。

また、生涯にわたって、心と体、運動・スポーツにかかわり、より豊かで健康的な生活を築いていくための基礎を培うという社会的役割を担っている教科でもある。それを自負して教科学習にあたりたい。

#### (1) 健康・運動・スポーツを通して豊かな人間性を育む

スポーツが生活の中で行われるには、優劣の秩序化や相手を打ち負かすところに意味が置かれるのではなく、勝者も敗者も、強者も弱者も互いに認め合い、しかも、それぞれのよいところや個性を存分に発揮し、高め合うことの意味や価値をみんなに共有されることが必要であると考え。「人を思いやる気持ち」「互いを認め合う気持ち」を根底にした自己実現の在り方を追究していきたい。

自分や仲間の心と体、健康を見つめることを通して、互いの命を重んじる姿勢を培っていきたい。

#### (2) 健康・運動の学び方(=生活に結びついた「使える」問題解決力)の習得を図る

健康・生涯体育・スポーツの実践力は、子どもが主体的に学習に取り組むなかで育まれると考える。子どもがこだわりをもって学習に取り組み、実感を伴って納得するという過程が重視されるべきであろう。また、学び方を習得していくことは、学んだことを生活に生かそうとする力として、必要ではないかと考える。

### 3 授業づくりにおけるポイント

#### (1) 子どもの願い・欲求を満たす「教材との出会わせ方」

- ◇ 運動自体の心地よさ、健康の素晴らしさを味わう場を大切にする。
- ◇ 子どもの実態を把握し、子どもの願い・欲求を満たすという側面を大切にしながら、教師が教えたこと・気づかせたい価値に結びつけて、授業の方向づけを図る。
- ◇ 学習意欲の継続や学習の見通しをもつために、目標の明確化を図る。

#### (2) 自分なりに発展しやすい「学習課題の設定」

- ◇ 具体的な手だてが見つかる、達成の可能性のある自分なりの学習課題をつくれるように導く。(授業前・授業中)
- ◇ 自分の学習課題がどうだったか一つ一つ記録し、次のやりたい学習課題が見つけれられるようにする。

#### (3) 自己決定できる「場」や課題解決のための「活動時間の保障」

- ◇ 自分にとって、何が、どれが効果的なのか、自分の体で試して納得する授業過程を設定する。
- ◇ ある程度、健康・運動のしくみや方法が分かったら、自分なりに考えた方法を試す場や課題解決のための時間を保障する。

#### (4) 学び合い、高まり合う「集団づくり」

- ◇ 教材に応じたグループを組織したり、チームを編成したりする。
- ◇ 個の違いやよさを認め合い、互いに思いやるやわらかな雰囲気づくりに努める。

#### (5) 個人内の伸び、集団内のかかわりをもとめる「評価」

- ◇ 「できばえ」に対する評価を「自己実現」という視点から行い、昨日の自分より今

日の自分というように、個人の中での向上に喜びを感じることができるよう働きかけを行う。

- ◇ 集団（グループやチーム）内のかかわりが、喜びや成果としてみとれる評価を工夫する。

#### 4 授業時間と学習活動

- ◇ 30分…オリエンテーション，資料や学習カードを活用しての課題づくり，ビデオなどの活用しての技術の分析・総合，技能習熟のための練習，単元のまとめ，保健学習
- ◇ 40分…見通し→追究→ふり返り
- ◇ 60分…記録会，まとめのゲーム，学年での取り組み

#### 5 成果と課題 - 「人やものとかかわることを大切に」から - (◇=成果，◆=課題)

##### (1) 健康・運動とのかかわり

- ◇ 優劣をつけることに意味をおくのではなく，懸命に運動を追究する姿勢（下手でも一生懸命）を認める姿勢で学習に臨んでいる。
- ◇ 自分の体やその動きをイメージ化する方法として，動きの言語化が有効であることが確認できた。
- ◇ 「生活への広がり」は，授業を通して見とることが難しかったが，体育で行った単元を休憩時間や自分タイムで極めようとする姿が見られた。
- ◆ 運動技術を習得するにあたって，見つけたポイントやコツの理由を明らかにしながらその意義を高めてから練習に取り組む姿勢を大切にしていける必要がある。
- ◆ 大単元（10時間程度）を組むことにより，極める楽しさや難しさを味わう機会をつくることにより，もっと体育を楽しむ深い姿勢を身につけていきたい。
- ◆ 「場づくり」「メンバーによるルールへの工夫」など，学習したことが，日常生活にあまり生かされていない。（3人で四角ベースの野球など）
- ◆ 「健康・生命」を基本的な柱にそえて，保健領域の学習のねらいや内容をしっかりと検討し，子どもたちが運動と健康を一本化として考え，生活していくようにする必要がある。

##### (2) 仲間・教師とのかかわり

- ◇ ビデオなどを利用して，仲間の理想的な動きを分析したり，自分の動きと比較したりすることは，自分の課題を明確にするのに有効であった。
- ◆ 「他との違い」を認める姿勢を子どもたちにいねいに押さえていける必要がある。
- ◆ 互いが教え合いことがとても素敵なことを学習の中でもっと実感するように，もっと仲間とのかかわりやその成果を研究していく必要がある。（仲間の伸びを自分のように喜ぶ・懸命に仲間が上手になるようにアドバイスし続ける・そのアドバイスを素直に聞き入れる姿勢など）

##### (3) 自分自身とのかかわり

- ◇ 理想とする動きを言語化したものを自分の体の動きに活用していくことは，運動技術を習得していく過程では有効であった。
- ◆ 自分の課題をしっかりとつかむためにも，ふり返り（自己評価）をしっかりとするためにも，自分の体の動きがどうなのかをイメージする手だての工夫がいる。

##### (4) その他

- ◆ 30分と60分の時間にあつた学習活動を単元の流れの中で，きちんと考えていく必要がある。